

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4790500096		
法人名	有限会社 アーバンエステート		
事業所名	グループホーム まえはら		
所在地	宜野湾市真栄原3-6-28		
自己評価作成日	令和 1年 12月 25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaikogensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyosyoCd=4790500096-00&ServiceCd=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 介護と福祉の調査機関おきなわ		
所在地	沖縄県那覇市西2丁目4番3号 クレスト西205		
訪問調査日	令和2年 1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

出会いに感謝、入居者様、家族の想い、希望を汲み取り応えていけるよう心がけています。入居者様ひとりひとりに合った出来ることを、役割を担って頂き、家庭的雰囲気を中心に楽しく、笑いの絶えない生活、心身の状態に合わせたケア、レク活動を行い、園外レク、ドライブ、買物等楽しみある、自分らしい生活ができるよう、利用者、職員お互いに支えあいながら支援していくことを心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本事業所は、宜野湾市内の住宅街の中に建つ平屋のグループホームで、開設8年目を迎えている。利用者と職員が和気藹々とした明るい雰囲気の事業所で、利用者が笑顔で暮らし、日々の活動が楽しくなるような取り組みが行われている。一人ひとりの「元気で頑張る表」が見やすい位置に貼られ、家事や調理への参加、レク活動等個々の能力や状態に応じた努力項目を掲げ、利用者の意欲を引き出す工夫をしている。利用者が職員と一緒に作成した大型の壁新聞やグループホーム便りも掲示され、家族や来訪者に利用者の日常風景や行事等の様子を伝えてコミュニケーションを図っている。利用者が日中の大半を過ごす居間では、各テーブルの下部の横板に幅広の厚めのキルトを巻いて安全に配慮し、飲み物コーナーを設けてお茶やコーヒーが希望に添って提供できるように工夫をしている。食事は3食事業所で職員が調理し、盛り付けにも配慮した食事を職員も一緒に摂っている。利用者や家族の思いを尊重し、洋服等にこだわる利用者の買いたい品物について販売店を調べて買い物支援を行い、家族等の要望を受け、「ふるさと訪問」を実施するなど職員がチームワークを発揮して利用者本位の支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

確定:令和2年4月6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に理念を提示し、職員の意識付けをしている。	4年前に職員全員で見直しを行った理念に沿って、「出会いに感謝し、利用者が自分らしく笑顔で楽しく暮らせる」よう支援している。職員は利用者の思いを傾聴し、利用者に寄り添う支援を目指しつつ、職員自身が楽しく仕事をし、利用者尊重の姿勢で業務に臨めるよう努めている。安心と居心地の良さを利用者や家族に感じてもらえるよう信頼関係作りにも努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が来所してくれます。利用者様と一緒にゴミ箱作りやおしゃべりなど楽しんでいます。近くの小学校、保育園児の訪問もあります。	地元の自治会に加入し、近隣の自治会長も含め3名が運営推進会議の委員となっている。地域のデイサービス利用者との交流や保育園の園児達との散歩時の交流が日常的にあり、青年会のエイサーの演舞披露もある。毎日のように来所し、利用者と一緒に活動する地域住民の方がおり、差し入れ等もある。社協の依頼で、小学校4年生を対象に「車イス講習会」を開催し、中学生の職場体験も受け入れている。8事業所の合同運動会に全員が参加し、賞状等も掲示されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会等の集会、イベントへの参加、中・高生の職場体験の受け入れを行っている。地域の方々からご家族の相談があれば対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	活動内容の報告だけにとどまることの無いよう取り組んでいる。自治会長、知見を有する方々からの意見をいただく。	運営推進会議は偶数月に開催し、利用者や家族代表、行政、知見者、地域代表等が参加している。会議では利用者の状況、主な活動や出来事、事故・ヒヤリハット、職員研修、外部評価結果等の報告が行われている。身体拘束や入浴拒否、困難事例等について話し合い、委員からアドバイス等を受けている。議事録、及び外部評価結果等を公表している。活発な意見交換とともに、意見交換の発言者・応答者がわかるような議事録の整備に期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所、介護長寿課、生活保護課へ入居者様と一緒に訪問し、近況報告をしている。困難事例等は包括支援センターに相談、助言協力いただいている。	市の介護長寿課とは、定期的に窓口を訪問して近況報告をしたり、市が発行する「シルバーパスポート利用割引券」を家族の代理で受け取ったり、研修等についての案内を受信する等協力関係を築いている。認知症疾患による暴力の困難事例について、専門科の外来受診につなぐ助言を得て、解決を図っている。担当課の依頼で「認知症サポーター養成講座」を実施し、災害時等一時避難受け入れの要請も受諾している。	

自己評価および外部評価結果

確定:令和2年4月6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、勉強会を定期的に行っており、職員同士、相談助言、話し合いを日頃からしており、身体拘束についての意識をしている。	身体拘束をしないケアについての方針は、入居前に家族等に説明し、職員にも周知して実践に繋げている。身体的拘束等の適正化のための身体拘束廃止委員会を2か月に1回開催し、話し合いと勉強会を重ね、拘束はもちろん、「いやがることはしない」という考え方を確認し、ベッド柵やミトン、オムツ等について職員間で拘束に該当するか、事例を検討している。身体拘束廃止委員会の内容は職員に周知しているが、議事録の整備に期待したい。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月のミーティング・勉強会で虐待について話し合い、事例等をあげ日頃のケアについて考える機会を設けている。	虐待については、ミーティングや事業所内外の勉強会等で学習し、防止に努めている。マニュアルの読み合わせや虐待の記事等の資料配布を通して職員の意識を高め、日々の支援で「不適切なケア」がないか、互いに確認し合っている。トイレに頻繁に行く利用者への「さっきトイレに行ったよ。」等の不適切な言葉遣いについては管理者が後で注意している。利用者間の暴力を未然に防ぐ対応にも配慮している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症高齢者の権利擁護について勉強会を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前にご本人、ご家族に説明し、分かりやすく説明することを心がけている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置、面会時等ご家族からの意見、要望について全職員で対応、共有している。	利用者からは直接聞くことが多く、「家に帰りたい」、「スーパーに行きたい」、「洋服を一緒に買いに行きたい」等の要望に応じている。家族等の意見や要望は、主に面会時に聞いている。受診の同行依頼や役所での代行手続き、出身地や自宅訪問等に対応している。家族とはライン等を利用した情報交換も行き、グループホーム便りやイベントの写真等の送付を通して交流を図っている。	

自己評価および外部評価結果

確定:令和2年4月6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から意見を聞き、話し合いをし、毎月のミーティングでも報告し反映するよう心がけている。	職員の意見や要望は日常の業務やミーティングを通して聞き、管理者は普段から話しやすい環境作りに努めている。レク活動や行事に関わる備品の購入、乾燥機の不具合についての要望等に対応している。夜勤の多い管理者の健康保持と日中の情報交換のため、夜勤を減らすよう職員の要望があり、職員募集等に対応している。近隣に住む法人の事務長が毎朝来訪し、利用者や職員の状況把握やコミュニケーションに努めている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の得意な事をケアに活かした役割を持ってもらい、自信・やりがいに繋がり、楽しく仕事ができるよう努めている。	就業規則が整備され、疑問等は法人に確認して職員に周知している。職員のほぼ全員が正規職員で、有給休暇や育児休暇等の取得、法人の助成制度を活用した資格取得等を奨励している。入職後、複数名の職員が介護福祉士や認知症ケア専門士等の資格を取得している。健康診断は法人負担で全職員が行い、夜勤者は2回実施している。年に1回法人代表との面談があり、業務や給与等について話し合い、管理者は日々の職員の疲労度等に配慮している。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修や勉強会に参加している。各職員の疑問・不安には資料を準備し全職員で話し合い、職員が講師となり勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部の研修に参加し、交流の機会の確保を行った。また、相談等を行い、他事業所を訪問し情報交換を行っている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	導入時だけでなく、相談があった時点より本人との会話を意識し、行っている。また、ご家族から情報を頂いている。		

自己評価および外部評価結果

確定:令和2年4月6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族の思いや要望を傾聴している。また、リスク等や二人三脚でご本人の生活を守っていく必要性を説明する事で、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の想いや希望を傾聴し、以前利用していた事業所等の情報を踏まえたうえでアセスメントを行いケアを提供するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出会ってから最期までを共に過ごす関係を意識しながら関係作りを行う心がけている。またできる家事等を行って頂き、共同生活に参加していると実感してもらえるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	一緒に考える立場としての関りを大事にしている。ご本人の近況をお伝えし、継続的に関わっていただけるようにしている。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に利用していたお店等に行ったり、生まれ育った場所へドライブに行ったりしている。	馴染みの人や場との関係については、入居時のアセスメントをはじめ、家族や友人知人からの情報、本人の話等から把握している。毎日のヤクルト提供や行事の際のビール等の嗜好品の提供、大正琴の演奏、昔通っていた畑のあった場所への外出支援等に繋げている。旧友や元同僚の来訪を受ける利用者や本人・家族の要望で故郷の名護市の娘宅訪問を実現した利用者もいる。	

自己評価および外部評価結果

確定: 令和2年4月6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士、相性を考慮しながら普段過ごす場所、レクを提供している。また支援の必要な入居者様には支援を行い、トラブルが少なくなるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も来所していただけるご家族もおり、支援が必要な方、ご家族には支援が行えるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の気持ちを傾聴することを意識して行っている。表出の困難な方には毎日の生活から情報を得るようにしている。また職員間で情報を共有し、ご家族からも情報を得るようにしている。	利用者の思いは日々の生活の中で聞いたり、ドライブや買い物時に聞いて把握に努め、利用者が自分の思いを表出しやすいよう居室の中で聞くこともある。「刺繍がしたい」、「お寺に供養をしに行きたい」等の意向に個別に対応している。把握が難しい利用者の場合は、聞き方を工夫して「イヤ」とか「ダメ」とかの意思表示を見逃さないようにし、家族から得た情報も含めて理解するように努め、支援に反映している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との会話、ご家族、以前利用していた事業所などより、情報を頂き把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来ること、楽しんでいることを意識し、観察を行い、職員間での情報の共有、把握するようにしている。		

自己評価および外部評価結果

確定:令和2年4月6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(12)	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>担当者会議に、ご本人、ご家族、職員に参加していただき、希望、必要なことなど、意見を出し合い計画作成するよう努めている。</p>	<p>サービス担当者会議に利用者や家族、職員等が参加し、家族等の意向を反映した介護計画の作成に努めている。長期目標は1年、短期目標は半年として設定し、半年に1回実施するモニタリングの結果、ケア会議での検討内容や職員の意見等を踏まえて、定期的見直しや随時の見直しを行っている。介護計画書や介護記録等の様式が見やすく、書きやすいよう工夫されている。個別の買い物支援等を介護計画に記載することに期待したい。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別記録を行い常に職員間で情報を共有出来るようにしている。職員の気づきを介護計画に反映、見直しを行っている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ご本人やご家族のやりたいことを大事にし、ニーズに応えることができるよう努めている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>訪問看護、訪問理容を利用している。買い物やドライブ、散歩を行っている。</p>		
30	(13)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医の継続受診を行って頂いている。ご家族の対応が困難な場合は職員で対応し、医療との連携も行っている。</p>	<p>利用者はかかりつけ医を継続受診し、基本家族での対応となっている。家族から、事業所で通院支援をしてほしいとの要望があり、多くは管理者や職員で対応している。必要に応じ情報提供書を持参し、受診後は診療結果報告書を受け取っている。利用者には特定検診等の受診を促している。週1回訪問看護を利用し、医療連携に努めている。</p>	

自己評価および外部評価結果

確定:令和2年4月6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	気づいたこと、些細なこと、不安、疑問を相談し、報告し、助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院には、情報交換を行っている。定期受診の際にも情報を提供することで良好な関係を保てるよう努めている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族とご本人を中心に考えた終末期の在り方を定期的に行うよう努めている。	重度化や終末期に向けた事業所の方針は、入居前に利用者や家族に説明している。看取り指針が作成され、職員へ周知している。状態悪化に伴い利用者や家族の意向把握に努め、看取りを希望する場合は同意書をとっている。職員の研修や勉強会を行い、訪問看護師による24時間オンコール体制をとる等、チームで取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ミーティング、勉強会を行っている。応急手当等の資料を掲示している。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防署職員立会いの下避難訓練を行っている。	宜野湾市消防署立会いで、年2回夜間想定避難訓練を実施し、地域の住民2人が見守りで参加し、実施報告書も作成されている。近隣住民や自治会に対しては避難訓練の文書を配布し、周知を図っている。水や食料、紙おむつ等が3日分程度備蓄されている。防災用品の持ち出し用バッグとリュックが準備されている。	

自己評価および外部評価結果

確定:令和2年4月6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助、介護するという立場ではなく、お手伝いをさせていただいているという立場で、声掛け支援を心がけている。守秘義務に関しては、職員入職時に説明し同意を得、勉強会も行っている。	利用者の誇りやプライバシーを損ねるような対応や言葉づかいについては注意し、利用者の気持ちに寄り添った支援に努めている。転倒防止や防犯上のため、カメラがトイレ前、ホール(玄関向け)、非常口(外向け)に設置されている。就業規則や契約書に守秘義務が明記され、職員は誓約書も提出している。個人情報保護方針は玄関横のカウンターに下げていたが、利用目的が確認できなかった。	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保のため、特定した利用目的を整備し、個人情報保護方針とともに利用目的の追加公表が望まれる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活だけの関りだけではなく、個別での外出機会を設けたり居室訪問を行い、ご本人の思いを表出出来る環境づくりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の希望、体調等に合わせて過ごしていただけるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各イベントごとにプレゼント等を利用し、必要なものやお洒落を楽しんでもらえるようにしている。また、希望者には白髪染めを行っている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものの希望を聞いたり、季節・イベントを感じてもらえるような献立作りを行っている。また、調理の下ごしらえや食器洗いを手伝ってもらっている。	食事は3食職員が調理し、利用者の希望を聞いたり、好評であったもの、不評であった料理を記載して、次の献立に反映している。好評は味噌汁、オムレツであった。朝食の時間は、利用者の起床時間や体調に合わせるようにしている。誕生日は月ごとに行い、ケーキで祝っている。ほとんどの利用者は自力で食事が摂れ、職員も利用者と一緒に同じ食事を摂っている。すべての食卓の下部の横板に幅広の厚めのキルト布を巻き、安全面への配慮がされている。	

自己評価および外部評価結果

確定:令和2年4月6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ご本人の摂取しやすい形態での提供や食べたい時間に食事の提供をし、水分は希望時や自由に摂取できるように準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人の習慣を尊重しながら、毎食後の口腔ケアの支援を行っている。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を大切にし、一人一人にあわせた声かけや支援を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、日中はトイレで排泄ができるよう支援している。おむつの使用はなく、全員リハビリパンツで、1人だけ夜間にポータブルトイレを利用している。病気を治療し、布パンツに改善した利用者も2人いる。排泄に失敗した場合は、声かけに気をつけ早めの対応を心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	主治医に相談したり、排泄の周期を把握するように努めている。また、必要時には腹部マッサージ等を行っている。		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は、大まかに決まってはいるが、本人の希望を尊重し、無理な声かけや誘導を行わないようにしている。希望者には、毎日の入浴も可能ではあるが、職員の配置等を考慮し、本人の時間を決めている。	基本週3回の個別入浴で、各居室にも入浴表が貼られている。入浴拒否の場合は、無理じいせず、清拭に変更したり、様子を見たり、「一緒に買い物に出かけるので、入浴しよう」などと声かけの工夫をしている。風呂に入ったつもりで長期間、入浴を拒否する利用者がいたが、毎週入浴するまでに改善している。入浴は同姓介助を基本としているが、対応できない場合は説明して承諾をもらい、異性介助を希望する方へも配慮して対応している。	

自己評価および外部評価結果

確定:令和2年4月6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室だけでなく、ソファ等を利用し、自由に休息がとれるように環境整備を行っている。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	作用・副作用等を職員がいつでも確認できるようにしており、ご本人に合わせた服薬での支援を行っている。	薬は事務所で一括管理し、夜勤担当が薬の準備を行っている。服薬前後の注意喚起は、計画作成担当者が職員に口頭で伝えている。服薬管理マニュアルは作成されているが、服薬事故があった場合の対応等の記載が確認できなかった。半年以内に複数回の飲み忘れ等の誤薬に関する事故が確認された。	安心安全な服薬支援のため、マニュアルに、服薬事故が発生した場合の対応等を追加するとともに、再発防止の検討会議の実施が望まれる。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の得意な家事や手工芸等を行ってもらっている。また、季節に合わせた園内外レクを行い、気分転換や楽しみを感じてもらえるように努めている。		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	可能な限り希望にそった外出支援を行っている。日頃から入居者様の希望を聞くようにし、園外レクに繋げるようにしている。また、重度の方も一緒に外出できるように工夫を行っている。	日常的な外出支援で、散歩やスーパー及び八百屋へ買い物に出かけている。全員で出かけるように外出活動に力をいれ、工夫している。買い物や外食時は事前に下調べを行い、トイレは車いすの利用ができるか、食事はきざみ食に対応できるか等、店と連携しながら外出支援を実践している。「ふるさと訪問」で中城や嘉数高台、名護市等の馴染みの場所へ出かけたり、ひまわりやコスモスの花見等にも出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	能力に合わせた金銭管理を行ってもらっている。また、希望の買い物ができるように支援している。		

自己評価および外部評価結果

確定:令和2年4月6日

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に電話がしたいときには、一緒にかけるようにしている。		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた手工芸等で居間を装飾したり、入居者様と一緒に掃除したり、居心地の良い環境を一緒につくるように努めている。	壁には敬老会や行事の写真、8事業所で行う「ゆいまーる運動会」の賞状が飾られている。手作りの「まえはら新聞」には利用者の孫の結婚式の記事も載せている。利用者ができることを増やし、できた場合は○をつけていく「元気で頑張る表」も掲示されている。お茶やコーヒーが選べるように準備され、利用者はお気に入りのソファで、ユーチューブの沖縄芝居を楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いろいろな場所にソファ等を設置し、好きな時に好きな人と好きな場所で過ごしてもらえるようにしている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に在宅で使用していた家具や寝具の持ち込みをお願いしている。	ベッドやマット、エアコンが設置され、タンスや寝具、テレビ等は持ち込みとなっている。居室はプライバシー保護のため、各自好みの暖簾をかけている。壁には家族写真や塗り絵が飾られ、入浴表も貼られている。多くの居室にセンサーが設置され、転倒防止に努めている。居室内に紙おむつが無造作に置かれていた。	居室内に紙おむつが無造作に置かれているので、プライバシーへの配慮として、収納箱やカーテン等を利用した工夫が望まれる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境をバリアフリーにし、環境を整備することで自由に行動できるようにしている。		